

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 みその福祉会

特別養護老人ホーム ケアタウン成増

デイサービスセンター ケアタウン成増

ヘルパーステーション ケアタウン成増

居宅介護支援事業所 ケアタウン成増

成増地域包括支援センター

目 次

1. 社会福祉法人みその福祉会

(1) 事業内容	1		
(2) 法人経営理念	1		
(3) 法人運営理念	1		
(4) 職員構成	2		
(5) 実習生・研修生受入状況	2	～	3
(6) ボランティア受入状況	3	～	4
(7) 防災訓練等の状況	4		
(8) ワーキングチーム	5		
(9) 法人研修・勉強会	5	～	6

2. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

(1) 令和4年度を振り返り	6		
(2) 入居者の状況	6	～	7
(3) 行事の実施報告	7	～	8
(4) 食事行事の活動報告	8	～	9
(5) その他の活動報告	9	～	9
(6) 特養各委員会の活動報告	9	～	10
(7) 特養クラブの活動報告	10	～	11
(8) ケアカンファレンスの実施状況報告	11		
(9) フロア会議実施報告	11		

3. 短期入所生活介護（ショートステイ）

(1) 令和4年度を振り返り	11		
(2) ショートステイの居室配置	12		

4. 通所介護（デイサービス）

(1) 令和4年度を振り返り	12		
(2) 利用者状況 実績	12	～	14

5. 訪問介護（ホームヘルプ）

(1) 令和4年度を振り返り	15	～	16
(2) ヘルパーステーション活動状況	16		
(3) 月別ヘルパー活動状況	16		
(4) 要介護度別活動状況内訳（利用者数）	17		
(5) 活動内容内訳	17		

(6) 部内研修	17
----------	----

6. 居宅介護支援事業

(1) 令和4年度を振り返り	18
(2) 事業計画実施状況	18 ~ 19

7. 地域包括支援センター

(1) 令和4年度を振り返り	19 ~ 20
(2) 相談件数実績	20
(3) 総合相談	20 ~ 21
(4) 虐待相談	21
(5) 板橋区苦情・相談事業	21
(6) 介護予防・日常生活支援総合事業ほか	21 ~ 22
(7) ケアマネジメント支援	22
(8) 地区ネットワーク会議	22
(9) 板橋区相談協力員連絡会・民生児童委員連携	22
(10) サービス事業者交流会	22 ~ 23
(11) 板橋区小地域ケア会議	23
(12) 認知症の方・家族支援	23
(13) 認知症早期発見	23
(14) 認知症の知識の普及	24
(15) 成増助け合い・支え合いの地域づくり会議	24 ~ 25
(16) 支援センターだより	25

1. 社会福祉法人みその福祉会

(1) 事業内容

①介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

常時介護が必要（介護3～介護5）で、ご家庭での生活が困難な方が長期入所されます。

入浴、排泄、食事等の介護や日常生活上のお世話及び日常生活における機能訓練を行います。

②短期入所生活介護（ショートステイ） *介護予防を含む

特別養護老人ホームに短期入所し、入浴、排泄、食事等の介護や日常生活上のお世話及び日常生活における機能訓練を行います。

③通所介護（デイサービス） *介護予防・第1号通所事業を含む

老人デイサービスセンターに通って、施設において入浴、食事の提供等日常生活上のお世話及び日常生活における機能訓練を行います。

④訪問介護（ホームヘルプ） *介護予防・第1号訪問事業を含む

ホームヘルパーが居宅を訪問して、入浴、排泄、食事等の介護や日常生活上のお世話を行います。

⑤居宅介護支援事業

介護の知識を幅広くもった介護支援専門員（ケアマネージャー）が、ご利用者の心身の状況や希望をうかがい、要介護度に応じた適切な居宅サービス計画（ケアプラン）を作成します。

⑥地域包括支援センター

地域の高齢者の心身の健康の維持、保健・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助、支援を包括的に行います。

(2) 法人経営理念

- 経営資源を最有効活用し、確固たる経営基盤を確立します。
- 健全な経営を目指し、事業経営の透明性を確保します。

(3) 法人運営理念

- 利用者様の尊厳のある生活を支援します。
- 利用者様本位のサービスを提供します。
- 利用者様に家庭的でゆとりのあるサービスを利用して頂きます。
- 利用者様一人ひとりに合った質の高いサービスを提供します。
- 常に地域に開かれ、地域福祉の中心的存在であります。

(4) 職員構成

(令和5年3月31日現在)

	特別養護老人ホーム	短期入所生活介護	通所介護	訪問介護	居宅介護支援事業	地域包括支援センター
管理者	1		(1)	(1)	(1)	(1)
配置医師	1(非)					
地域包括職員						8 1(非)
介護支援専門員					5	
生活相談員	4	2				
サービス提供責任者				3 2(非)		
介護職員	25 11(非)	4 11(非)				
ホームヘルパー				31(非)		
看護職員	3 1(非)	2(非)				
管理栄養士	1	(1)				
機能訓練指導員	1(非)	1				
運転手		8(非)				
事務員	4 2(非)					

*1 (非)は非常勤職員

*2 () 内は兼務職員数

(5) 実習生・研修生受入状況

①介護福祉士養成課程

淑徳大学短期大学部	6月(3日間) …デイ (1名) 10月(3日間) …デイ (2名) 11月(3日間) …デイ (2名) 1月(18日間) …特養 (1名)
-----------	---

②地域看護学実習

成増高等看護学校	5 月 (3 日間) …デイ (6 名)
	6 月 (2 日間) …特養(6 名)
	6 月 (1 日間) …デイ(6 名)
	6 月 (3 日間) …包括(2 名)
	7 月 (1 日間) …特養(9 名)
	7 月 (2 日間) …デイ(9 名)
	8 月 (3 日間) …包括(2 名)
	9 月 (3 日間) …包括(2 名)

③インターンシップ

日本社会事業大学	9 月 (5 日間) …デイ (1 名)
----------	----------------------

④職場体験学習

赤塚第二中学校	10 月～11 月 (2 日) …デイ (2 名)
---------	---------------------------

⑤ソーシャルワーク実習

東京福祉大学	10 月～11 月 (26 日) …包括 (1 名)
--------	----------------------------

(6) ボランティア受入状況

令和 4 年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度同様にご利用者と接触しない内容の洗濯物仕分けや日常活動を中心にボランティアの受入れを実施しました。オンライン傾聴ボランティアは 1 組増え、成増図書館によるオンライン紙芝居等も定期的に開催することが出来ました。令和 5 年度は感染状況等を鑑み、ウィズコロナとして楽器演奏など実施可能なボランティアの皆様が活動出来る機会を実践していきたいと思います。

①ボランティア受け入れ総数（延べ人数）【全体】

特別養護老人ホーム	611 名
デイサービスセンター	10 名
納涼会	実績なし
こども食堂・認知症カフェ	実績なし
合 計	621 名

②ボランティア活動内容内訳 【特別養護老人ホーム】

傾聴ボランティア（オンライン）	141 名
傾聴ボランティア（電話）	実績なし
喫茶ボランティア	実績なし
洗濯物仕分け	416 名
日常生活お手伝い	54 名
クラブ活動ボランティア	実績なし

イベント等ボランティア	実績なし
合 計	611 名

③ボランティア活動内容内訳 【デイサービスセンター】

日常生活のお手伝い	実績なし
生花	2 名
クラブ活動ボランティア	実績なし
オンラインイベント	8 名
合 計	10 名

(7) 防災訓練等の状況

令和3年度介護報酬改定において業務継続計画（BCP）の作成と研修が義務化されました。当法人でもオンラインにて開催されたBCP関連の研修に積極的に参加することにより、職員の災害対策知識の向上を図るとともに、施設内のサービスを中心に作成していたBCPの見直しも行い、法人全体の防災対策強化を図りました。

令和4年度は昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、災害時協定者による4者合同訓練が中止となり、2号消火栓操法効果確認会も中止となったため代替えとして志村消防署主催の「自衛消防スキルアップ講習会」に参加し、災害時の初期動作を身に付けました。また、コロナ禍でも実施できる訓練として、板橋区主催のいたばしシェイクアウト（1分間防災訓練）を法人内の訓練として取入れ、3カ月に一度実施することにより、災害時の初動に対する意識の向上に努めました。

また例年同様に、毎年2回実施している法人全体の避難訓練を実施し、夜間想定対応を中心に訓練を計画しました。人員の少ない夜間帯でも慌てることがないように、災害時の初動をしっかりと身に付けるための訓練を、特養職員・当直者を中心に実施しました。合わせて実施した初期消火訓練においても、職員に分かり易くする為に動画を作成し、火災の怖さ・初期対応の注意点・2号消火栓の正しい使用法等を学習する機会も設けました。今後も継続的に災害対策強化に努めていきたいと思います。

新入職員に対してはオリエンテーション時に消防委員会が作成した災害時の動画マニュアルの視聴と防火設備・AEDの使用法や設置箇所の説明を随時行いました。また、非常用発電設備についても定期的な始動運転や非常用のコンセントの確認、年一回の法定試験を行い、いつ災害が発生しても使用できる状態を維持しています。

大規模災害発生時において職員一人ひとりが、施設内の課題だけでなく周辺地域の課題に対しても迅速に対応できるように地域との情報交換・情報共有をより意識し強化することで、災害時における社会福祉法人としての役割を果たしていきたいと思います。

(8) ワーキングチーム

令和4年度もリーダー層・中堅職員・新人職員をバランス良く選出し、部署を越えた合同のワーキングチームにて法人の重点課題に取り組みました。

①職員育成・研修強化チーム

- ・コロナ禍において動画や Zoom を活用した研修の実施
- ・中堅職員研修の実施
- ・動画を含む業務マニュアルの見直し

②地域交流・広報強化チーム

- ・ブログやインスタグラム、広報誌等を活用した継続的な情報発信
- ・お弁当の無料配布（コロナ禍のため、こども食堂の開催中止）
- ・施設紹介動画の作成
- ・利用者向けオンライン紅葉見学イベント等のサポート

(9) 法人研修・勉強会

令和4年度も職員育成・研修強化ワーキングチームが運営主体となり、現場の要望を取り入れた研修会を外部講師への依頼も含め毎月開催しました。

コロナ禍においても継続して研修を開催するため、Zoom を活用した在宅での研修参加や、事前に研修動画を作成し期間内に個別に視聴する研修方法等、密にならないための対策を継続しました。

①法人勉強会

実施月	対象	内 容
4 月	全職員	食事について
5 月	全職員	感染症（食中毒）について
6 月	介護職員	排泄介助・褥瘡予防について
7 月	全職員	虐待防止・身体拘束防止について
8 月	全職員	介護記録について
9 月	全職員	中堅職員研修の報告発表
10 月	全職員	感染症について
11 月	介護職員	事故・ヒヤリハットについて
12 月	介護職員	認知症の方への対応について
1 月	全職員	看取り介護について
2 月	全職員	ハラスメントについて
3 月	全職員	ブランディング活動実践報告・次年度目標について

②法人全体研修

実施月	担 当	内 容
5 月	感染症予防委員会	※法人勉強会にて
7 月	接遇向上委員会	接遇力向上研修
10 月	衛生委員会	自転車安全運転研修会
12 月	接遇向上委員会	接遇マナー・コミュニケーション手法について

2. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

（1）令和4年度を振り返り

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の対応が続く中、当施設においても令和4年8月と12月にクラスターが発生しました。また同時に関係職員の感染も確認され、医療機関の新型コロナ用病床がほぼ満床となり入院出来ず、しばらく厳しい運営が続きました。そのような状況下でも、生活課全職員が直接的なケアに携わっているという意識を持ち業務にあたり、ご利用者とご家族に満足感と安心を感じていただけるよう努めて参りました。今後ご利用者の満足度が向上するよう一丸となって取り組んでいきます。新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながらではありましたが、屋外への外出などイベントの幅を広げることができご利用者の笑顔も多く見ることが出来ました。ご家族との面会もパーテーション越しながら同じ空間で過ごしていただけるようになりました。令和5年5月より感染症法上で5類に変更となり、感染対策方法の見直しが必要となりますが、引き続き新たな感染症予防策を基に、テラスの有効活用や外出の機会を増やすなど、今後も少しずつコロナ前の生活に戻せるよう前進していきます。

（2）入居者の状況

①入居者数

定員：特別養護老人ホーム 80名

（併設ショートステイ 4名）

令和5年3月31日現在入居者 78名

②入居者の推移（月末の性別入居者数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	17	17	16	14	14	15	16	17	19	19	19	18
女	60	58	58	56	54	55	55	55	58	58	59	60
計	77	75	74	70	68	70	71	72	77	77	78	78

③平均入院者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均	0.7	1.2	1.4	0.6	1.1	6.2	1.9	1.0	1.9	3.4	2.9	3.4

④性別・年齢別入居者数（令和5年3月31日現在）

	65歳未満	65～69	70～74	75～79	80～89	90～99	100歳以上
男	0	0	1	0	13	2	2
女	0	0	2	2	25	31	0
計	0	0	3	2	38	33	2

⑤平均年齢（令和5年3月31日現在）

全体	男	女
88.3歳	87.5歳	89.2歳

⑥性別・階別・要介護度別入居者数（令和5年3月31日現在）

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均	階別平均
2階	男	0	0	0	7	2	4.22	3.82
	女	0	1	11	8	5	3.68	
3階	男	0	0	4	2	3	3.88	3.61
	女	3	2	10	13	7	3.54	
計		3	3	25	30	17	3.71	

⑦性別・認知症高齢者の日常生活自立度別入居者数（令和5年3月31日現在）

	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	合計
男	1	1	1	2	6	1	6	0	18
女	1	3	2	7	26	7	14	0	60
計	2	4	3	9	32	8	20	0	78

⑧特養・短期入所合計稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	98.9	98.3	97.3	96.8	95.1	87.5	95.0	97.5	97.3	92.8	98.9	98.4	97.1

(3) 令和4年度 行事の実施報告

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で外部との交流イベントは出来ませんでしたでしたが少しずつ外出行事を再開し、新たなイベントを開催することが出来ました。施設内では四季を感じて頂けるような行事を企画し運営しています。

開催月	行事名	内 容
4月	お花見	2階のテラスにて満開の桜と写真撮影をしました。フロアごとに分かれて桜を見ながらお茶会をしました。

5 月	端午の節句	フロア内の入浴時に菖蒲を入れ菖蒲湯を行いました。 1 階ロビーで兜の飾りと写真撮影をしました。
	ドライブ	新河岸川のこいのぼりを見に行きました。
	外出	光が丘のローズガーデンに出かけました。少しの時間でしたが久しぶりの外出を楽しめました。
6 月	外出	近所の公園へ紫陽花を見に行きました。
	七夕飾り	笹飾りを作り、願いごとの短冊や飾りつけを行いました。 笹の下で写真撮影をしました。
7 月	夕涼み会	新型コロナウイルス感染症発生のため中止しました。
	納涼会	フロアごとに時間を分けて開催しました。金魚すくいと輪投げの 2 つのゲームを行いその合計得点で 1 位～3 位の方を決めました。盆踊りや夏祭りの映像を流してお祭りの気分を楽しんで頂きました。
8 月	敬老会 家族会	2 階 3 階の各フロアに分かれ、職員とご利用者のみの参加で賀寿者をお祝いしました。撮影した動画はご家族へ配信しました。おやつには記念の焼き印を入れたどら焼きを提供しました。
9 月	紅葉ツアー	デイサービスと合同で開催しました。光が丘公園と東京大仏からオンラインで紅葉風景を中継しました。
11 月	運動会	フロアごとに開催しました。赤と白のチームに分かれ大玉送りや玉入れで競い合い、良い汗を流すことが出来ました。
	クリスマス会	サンタやトナカイのコスチュームを着た職員と写真撮影をし、とても素敵な笑顔を見せて下さいました。おやつにチョコレートケーキを提供しました。
12 月	新年会	書初めや福笑い・百人一首・羽子板を楽しめました。昔懐かしい遊びをし、ゆっくりお正月の気分を味わって頂きました。
	初詣	施設内に職員手作りの鳥居、賽銭箱を設置し本格的なケアタウン神社を作りました。1 年の無事と平安を祈願しお参りをしました。
1 月	豆まき	職員が鬼となりカラーボールにて、豆まきを行いました。ボールを手にするについつい熱が入り白熱した鬼退治となりました。
2 月	ひな祭り	1 階ロビーで雛人形と写真撮影をしました。
	外出	赤塚溜池公園へ梅見に出かけました。
	ドライブ	車窓から光が丘周辺の桜を楽しみました。

(4) 令和 4 年度 食事行事の活動報告

令和 4 年度は様々なイベントが中止となる中で、食事の楽しみをご利用者に提供していけるよう出来る事を最大限行いました。毎月食事に関する内容でも様々な行事を企画し、皆様楽しまれたご様子でした。

生鮮買物	毎週ダイエーの移動販売にて注文を行っています。メニュー表を見て頂き、皆様召し上がりたい物をそれぞれ選んで頂きました。夏場は生ものを控える代わりに、冷たい麺類を提供するなど、季節感にあったメニューを提供しました。
行事食	そば打ちの等デモンストレーションは感染予防の為実施出来ませんでした。季節の行事にちなんだ料理や郷土料理など特別食は毎月実施し様々な食の提供を行う事が出来ました。
バイキング食	おやつバイキングは毎週日曜日に行っています。ご自身でおやつを選べるため、ご利用者も毎週楽しまれています。
お楽しみメニュー	令和4年度は感染予防の為、お楽しみメニューの実施は叶いませんでした。その代替として、おやつバイキングやセレクト食の回数を増やし、実施出来る範囲でのサービスを提供しました。
セレクト食	主菜の写真を見ながら食べたい物を選んで頂きました。主菜セレクト食は月に2回実施しています。
合同ランチ	令和4年度は感染予防の為実施できませんでした。
寿司の日	毎月1回実施。各フロアでの握り寿司のデモンストレーションなどは中止しましたが、11月と2月に握り寿司を提供しました。毎月の寿司の日は好評で皆様楽しみにされていました。
お茶会	毎週のダイエー移動販売やホテル・カデンツァの移動販売にておやつを購入し、少人数でのお茶会を実施しています。

(5) 令和4年度 その他の活動報告

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で対外的な活動が全て中止になってしまいました。喫茶は回数を増やして実施しました。来年度はコロナ禍でのボランティアや地域での活動を考え、社会との繋がりを大切にして行きたいと思います。

美 容	美容師により月2～3回実施。カット・毛染め・パーマ等。
洋服販売会	衣替えの季節に合わせて洋服の訪問販売会を1階にて行いました。商品を実際に目で見て、手で触れて選んで購入されました。
買物代行	ダイエーの移動販売等にて職員が代行して菓子類や嗜好品、日用品の希望を伺いながら毎週購入しています。
出前食	月に1～2回、その月のお誕生日者を中心に3～4名参加し、寿司など好きなメニューの出前を取り、召し上がって頂きました。
替わり入浴	季節行事の菖蒲湯・柚子湯、入浴剤を使用した森林の湯やラベンダー湯など季節に合わせた入浴を実施しています。
ひのき湯	日々の入浴とは別に、日曜日にデイサービスひのき浴槽で温泉気分を味わって頂きました。
喫茶	月に2回季節にちなんだお菓子や地方のお取り寄せのお菓子を提供しました。

(6) 令和4年度 特養各委員会の活動報告

ご利用者のよりよい生活を支援していくために各委員会でさまざまな検討を行いました。

委員会名	活 動 内 容
生活改善委員会	・排泄係・入浴係は、毎月の話し合いでご利用者一人ひとりに合った排泄のタイミングやパットの使用、入浴ケアの見直しを行いました。 ・食事係は、法人の栄養管理委員会に参加し、日頃のご利用者の意見や職員の感じたことを委員会時に報告しました。食事の回数や食事の形態などの見直しに加え、食事の席など環境面も定期的に見直し、フロア内でも話し合いをしました。
事故対策委員会	毎月事故とヒヤリハットの集計を行い、職員へ回覧と他部署へも情報共有を行いました。勉強会で実際に起きた事故を内容別に集計したものをを用い、事故原因の検証と対策についてまとめ、事故に対する職員のリスク管理の意識づけに努めました。
環境・感染委員会	今年度は新型コロナウイルス感染症予防の為、委員会を頻回に開催し感染症予防に努めました。勉強会に加えて重要事項は動画や新たなマニュアルを作成し職員間で共有しました。
身体拘束委員会	柵、センサー等の使用状態の確認と適正な使用方法の見直しを定期的に行いました。身体拘束の考え方や知識について会議や勉強会で職員に伝えました。
医療行為安全対策委員会	個々の職員やフロア内で医療行為のマニュアルやリスクを十分理解出来るように多職種で連携を図り検討しました。知識を習得するため勉強会を開催しました。
医療カンファレンス	配置医井上先生と氷川薬局を含めた多職種でご利用者について話し合いを行いました。

(7) 令和4年度 特養クラブの活動報告

令和4年度は、デイサービスセンターにて合同開催していた陶芸クラブと絵画クラブは感染予防のため参加出来ませんでした。各フロアで日常の作品作りやオンラインで参加するレクリエーションを積極的に行い余暇活動の充実に努めました。

クラブ名	活 動 内 容
文化クラブ	季節を感じられる作品（年賀状・書初め・鯉のぼり・クリスマス飾りなど）を作りました。作品はフロア内の食堂や廊下に掲示し他ご利用者が季節を感じられるよう工夫しました。 クラブ以外の余暇活動として折り紙・塗り絵・計算ドリル・音楽鑑賞などを準備し余暇時間に楽しんで頂きました。
健康音楽クラブ (音楽療法プログラム)	音楽療法士による活動は休止。日常的にカラオケ機やネット配信で昔懐かしい歌や四季折々の歌を再生し、音楽を楽しんで頂きました。
体操クラブ	日常生活動作の維持向上を目的とした活動を行いました。カラオケ機を使用した体操やリズムゲームで楽しみながら身体を動かすことが出来ました。

書道クラブ	季節に応じた題材の文字を提供し、多くのご利用者に書道を楽しんで頂きました。完成した作品は食堂や居室に掲示しました。
生け花クラブ	今年度は活動休止。

(8) 令和4年度 ケアカンファレンスの実施状況報告

第1を除く毎週水曜日に、原則サービス計画書更新前のご利用者を選出し開催しました。

- ・開催回数 24回（ショートステイ2回含）
- ・対象利用者延人数 154人（ショートステイ3人含）

(9) 令和4年度 フロア会議実施報告

全体で行事・委員会などの報告を行い、各フロアでは事前設定した課題について話し合いを行いました。

- ・フロア会議 11回（原則月1回、4月は業務繁忙により実施なし）

3. 短期入所生活介護（ショートステイ）

(1) 令和4年度を振り返り

今年度は、新型コロナウイルス感染症の対応が続く中、新規利用や緊急ショートの受け入れに対して事前のPCR検査を行い、昨年度より柔軟に対応しました。利用前のPCR検査や自宅での検温、送迎時の手指消毒等の感染予防対策を継続して実施し、安心してご利用いただけるよう努めました。施設でのクラスター発生時には、ご家族様やケアマネジャーに迅速に連絡をし、情報共有と居室調整や日程調整を行い、その中で出来る限りご家族のニーズに対応しました。

また、新規利用者獲得が難しい中、既存利用者への追加利用や日程延長の提案を積極的に行い、個々に合ったサービス内容を計画し、提供できるよう各職種の連携強化に努めました。

宿泊稼働率については、特養及びショートの全体宿泊稼働率の目標は99.0%でしたが、令和4年度の稼働率平均は96.2%で2.8%目標を達成することが出来ませんでした。空床ベッドの未稼働や施設での新型コロナウイルス感染症のクラスター発生時に実施した一時的なサービス停止が影響しました。

ケアタウン成増短期入所利用状況（月間）		
項目	令和4年度月平均	令和3年度月平均
利用日数	322.3日	302.3日
内男性	91.1日	85.8日
内女性	231.2日	216.5日
新規利用者割合	7.9%	6.7%
既存利用者割合	92.1%	93.3%

(2) ショートステイの居室配置 (令和5年3月31日現在)

2人部屋/ 214【男女兼用】

個室/ 317【男女兼用】， 318【男女兼用】

合計 4床

4. 通所介護（デイサービス）

(1) 令和4年度を振り返り

新型コロナウイルス感染症の流行が収まらない中、感染症対策を徹底しながらも他施設との差別化・満足度の向上を図るべく、以下の取り組みを実行しました。

①非日常の楽しみの提供（浴室リニューアル）

- ・自宅のお風呂では味わえない、非日常を楽しんでいただけるよう檜浴槽、脱衣所、脱衣かご等の備品をリニューアルし、また、毎月全国の温泉地の入浴剤を使用し、温泉気分を味わってもらっています。

②食の楽しみの提供

- ・「アフタヌーンスイーツ」として、おやつとドリンクを数種類から選び、楽しんでもらっています。また、地域のスイーツ（就労継続支援事業所 JHC 赤塚）を取り寄せ、献立に変化をつけています。

③買い物の楽しみの提供

- ・毎週水曜日、施設の駐車場でダイエーの移動販売を行っています。また、洋服の移動販売も実施（年2回）。貴重品ロッカーをフロア内に設置し、ご利用者自身がその場で購入いただけるように環境を整えました。

④リアルな体験による楽しみの提供

- ・外出活動として、バラ園ツアーや、梅見物ツアーなどを再開し、皆様に大変喜んでいただきました。オンラインによる活動も複数の施設参加型など強化しつつ、継続しています。

⑤社会参加・やりがいに繋がる活動の提供

- ・成増フェスタ（アクトホールで開催）や地域のカフェ（Café&Galleria Pathina）の作品展示会に参加。また、デイサービスの食事の下膳や備品の片付けを積極的に行ってもらい、やりがいに繋げています。

令和5年度においても新型コロナウイルス感染症の感染予防とのバランスを取りながら、ご利用者の生活の楽しみに繋がる活動を提供していきたいと考えています。また、在宅生活の課題を解決するプログラムを強化し、他施設との差別化を図り選ばれる施設となるよう取り組んでいきます。

(2) 利用者状況 実績

令和4年度においては、実人数198名（前年度比108.2%）、1日当たりの平均利用者数41.7人（同97.2%）と実人数は増加したものの、1日あたりの平均利用者数は令和3年度を下回りました。年間を通じて、新型コロナウイルス感染症の流行による欠席や利用控えの影響が大きな要因と考えます。

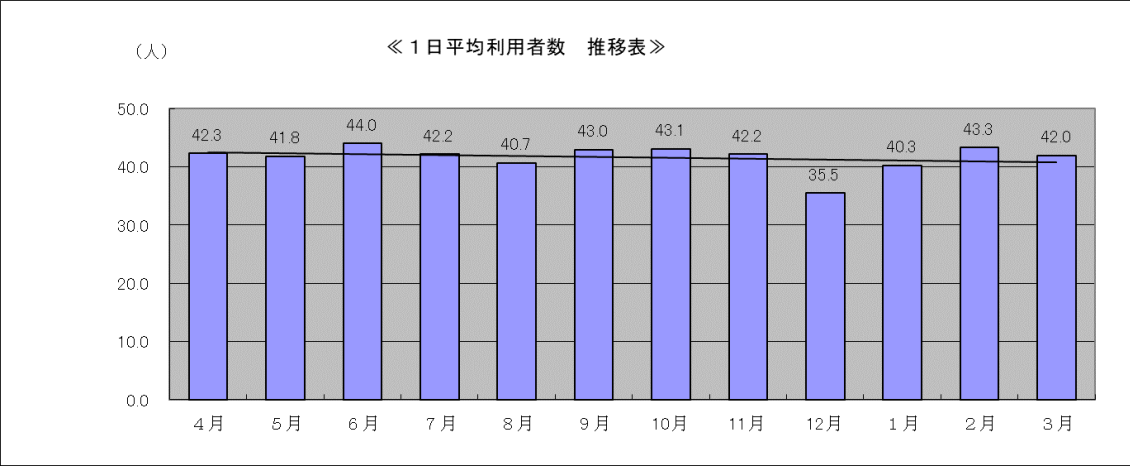
令和4年度3月時の利用状況ですが、要介護者の平均介護度は2.0（前年同月2.1）となっています。利用時間別利用者内訳は、7時間以上8時間未満が75.8%（同64.1%）と最も多く、5時間以上6時間未満は4.3%（同18.9%）と減少しま

した。夕食サービスが好評で、7時間以上の利用枠が令和3年度に比べ14ポイント上昇しました。

地域別利用者内訳ですが、令和4年度3月時の成増・赤塚・赤塚新町以外の地域の受け入れについては、計15名（前年同月14名）でした。今後は他事業所との競合が厳しくなることが想定されており、周辺エリア外のご利用者獲得も課題となります。成増・赤塚・赤塚新町地域の受入れは全体の89.4.％であり、特にこの地域の依頼については、サービスの差別化を図り利用に繋げるよう、今後も取り組んでいきます。

①月別ご利用者数

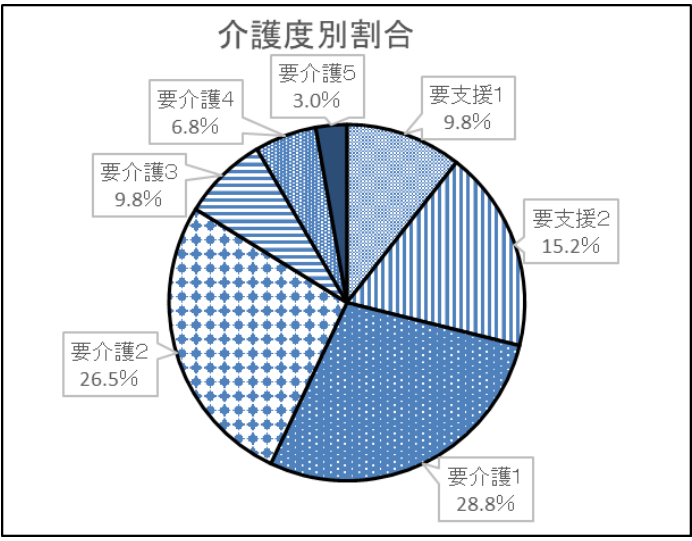
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
営業日数	26	26	26	26	27	26	26	26	24	24	24	27	308
実人数	134	139	142	139	138	141	143	148	148	142	144	142	198
延利用人数	1100	1087	1145	1096	1099	1117	1120	1096	852	967	1039	1134	12,852
延入浴人数	674	667	681	672	659	681	715	676	617	583	564	655	7,844
入浴割合(%)	61.3	61.4	59.5	61.3	60.0	61.0	63.8	61.7	72.4	60.3	54.3	57.8	61.0
一日平均 (利用人数)	42.3	41.8	44.0	42.2	40.7	43.0	43.1	42.2	35.5	40.3	43.3	42.0	41.7
一日平均 (入浴人数)	25.9	25.7	26.2	25.8	24.4	26.2	27.5	26.0	25.7	24.3	23.5	24.3	25.5



②要介護度別 ご利用者内訳

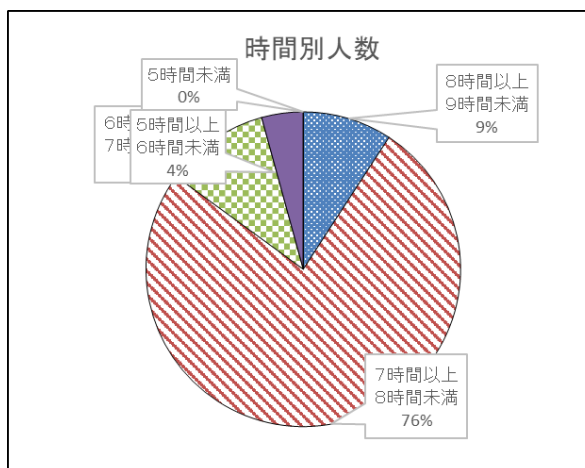
介護度	介護度別 実人数	割合(%)
要支援1	15	10.6%
要支援2	26	18.3%
要介護1	40	28.2%
要介護2	38	26.8%
要介護3	11	7.7%
要介護4	8	5.6%
要介護5	4	2.8%
合 計	142	100.0%
平均介護度	2.0	

(令和5年3月末現在 実人数)



③利用時間別 ご利用者内訳（令和5年3月末現在 延人数）

提供時間	時間別 延人数	割合(%)
8時間以上 9時間未満	84	9.2%
7時間以上 8時間未満	694	75.8%
6時間以上 7時間未満	98	10.7%
5時間以上 6時間未満	39	4.3%
5時間未満	0	0.0%
合計	915	100.0%



④年代・性別 ご利用者内訳（令和4年3月末現在 実人数）

(歳)	男性	女性	計	割合(%)	
				男性	女性
90～	10	41	51	7.0	28.9
85～89	8	34	42	5.6	23.9
80～84	11	26	37	7.7	18.3
75～79	1	7	8	0.7	4.9
70～74	1	1	2	0.7	0.7
65～69	1	1	2	0.7	0.7
～64	0	0	0	0.0	0
計	32	110	142	22.5	77.5

⑤地域別 ご利用者内訳（令和4年3月末現在 実人数）

地域	実人数	
	今年度	前年度
成 増	73	59
赤 塚	45	53
赤塚新町	9	6
大 門	0	0
徳 丸	1	2
三 園	4	2
高島平	5	5
四 葉	0	0
練馬区	1	3
和光市	4	2
合 計	142	132

5. 訪問介護（ホームヘルプ）

（1）令和4年度を振り返り

令和4年度の活動状況は、利用者実人数258名（前年度255名）、派遣延回数17,513回（同17,774回）、派遣延時間約15,200時間（同15,068時間）でした。新規利用者数は72名（同53名）。内訳は要介護34名、要支援32名、保険外6名。支援終了者は43名（同46名）でした。新規利用者数が前年度に比べ増加しましたが、法人内の居宅支援事業所からの依頼が増えたことと、サービス提供責任者や複数のヘルパーによる土曜日・日曜日の支援体制を強化したことが主な要因となります。年度を通しての予算達成率は101%と目標を達成することができました。終了者については身体状況の回復により支援が不要となった方がいる一方、体調を崩し入院されたのちに施設入所をされる方が多くいらっしゃいました。施設への入所に掛かる待機期間が短くなっている傾向が見られています。

新型コロナウイルス感染症による影響については、ヘルパーの同居家族からの感染はありましたが、陽性者対応等によるご利用者から職員への感染はありませんでした。支援中の感染対策（マスクの着用・換気・距離の保持など）が有効であったと感じる一方、自宅内・家族間での感染予防対策の難しさを感じました。

令和4年度は「効率化による事務所内業務の負担軽減」、「ヘルパーの働きやすい環境の整備等」を重点目標として達成に向け事業活動を行いました。各重点目標の活動内容、評価、課題は以下の通りです。

①効率化による事務所内業務の負担軽減

【活動内容・評価】

残業の削減（月5時間以内）や有給休暇の取得率アップ（年10日程度取得）を目標に取り組みを行いました。

ラインワークスを記録・報告としてのツールだけでなく、ヘルパーからの休み希望の連絡や法人内のケアマネージャーからの書類（照会依頼）のやり取りに利用することにより、用紙の受け渡しや記入の手間が省けると同時にペーパーレス化にもつながりました。

また、日々の業務の見直しとして、これまで朝のミーティングは各自の予定を伝える程度としていましたが、ご利用者への対応や支援内容について話し合うなど内容を充実させることにより、月に一度行っている部内ミーティングの時間を2時間から1時間に短縮することができました。また、サービス提供責任者間の連絡や情報の伝達もラインワークスを使用することにより、メモの作成の時間削減や伝達漏れの防止、情報の共有の効率化につながっています。

一つひとつの取り組みで得られる効果は小さいものですが、日々の業務の中に無駄がないかを常に考えることにより、今後も小さな改善を継続して行い効率化を進めていきます。

【課題】

残業時間の月平均は約4.5時間と目標を達成できましたが、年度末に向けて主任・副主任の残業時間が増えてしまう傾向が見られました。更なる業務の分担を進めるため他サービス提供責任者のレベルアップを行い、負担の偏りの解消を目指します。

②ヘルパーの働きやすい環境の整備

【活動内容・評価】

ヘルパーの働きやすい環境の整備に向けた取り組みとして有給休暇の取得しやすい環境作りを進め、以前よりヘルパーから出ていた要望に応えることができたと同

時に、今後のヘルパー人材の募集について大きなアピールポイントができたと考えています。

ヘルパーの人材獲得のための取り組みとして、板橋区で行っている「総合事業生活援助訪問サービス従事者養成研修」講座を法人主催で行いました。法人職員が講師を務め、5名の方に受講して頂き、受講後1名の方にヘルパー登録して頂く事ができました。次年度も引き続き開講する予定です。

【課題】

当法人においてもヘルパーの高齢化が進んでおり、人材の確保が課題となります。働きやすい環境を整備するためにも資格取得講座の継続的な開講等、地域に向けた広報活動を行い新たな人材を獲得していくことが重要です。

【令和5年度に向けて】

令和5年度の課題として、デイサービスとの業務の協力体制の推進があります。デイサービスとの人材交流やお互いの業務負担の軽減の他、令和6年度の介護保険制度改正で予定されている通所介護と訪問介護を一体化した新しいサービス開始への準備を進めます。事前の情報収集やヘルパーへの情報提供を十分に行い、今後の新しい働き方の提案をしていけるよう対応します。

令和5年度より運用が開始されたケアプランデータ連携システムの活用による業務負担の軽減も進めます。いち早く運用に参加したことによるメリットを最大限に生かし、今後システムを利用する事業所が増えた場合もスムーズに対応できるよう疑問点の解消や法人内の運用に際してのルール作りを進めていきます。

新型コロナウイルス感染症の扱いが5類に変更になったことに伴い、これまでの対応を見直す点も出てくると考えています。情報収集を十分に行い、状況に応じた適切な判断や指示ができる体制づくりを進めます。

(2) ヘルパーステーション活動状況

	令和4年度	令和3年度
利用者実人数	258名	255名
派遣延回数	17,513回	17,774回
派遣延時間数	15,200時間	15,068時間

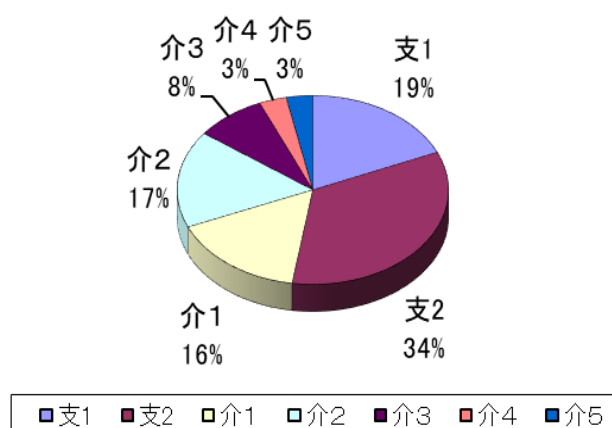
(3) 月別ヘルパー活動状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	157	162	160	161	156	162	167	171	168	166	169	167	1,966
回数	1,368	1,388	1,442	1,413	1,472	1,470	1,465	1,564	1,516	1,369	1,411	1,635	17,513
時間	1,178	1,195	1,235	1,224	1,267	1,278	1,268	1,338	1,323	1,221	1,238	1,435	15,200

(4) 要介護度別活動状況内訳（利用者数）

	令和4年度	令和3年度
支1	363	425
支2	668	680
介1	317	287
介2	327	355
介3	165	131
介4	64	76
介5	62	55
計	1966	2009

介護度別活動状況内訳
(令和4年度)



(5) 活動内容内訳

		令和4年度		令和3年度	
		件数	割合	件数	割合
要介護	身体介護 ※複合含む	6,572	38%	6,450	36%
	生活援助	4,368	25%	4,646	26%
要支援	訪問サービス	5,731	33%	6,021	34%
保険外		842	5%	657	4%
合計		17,513	100%	17,774	100%

(6) 部内研修

研修日	研修内容	参加人数
令和4年4月	就業規則等についての説明会	14名
令和4年7月	利用者支援に関する個別研修	2名
令和4年9月	利用者支援に関する個別研修	3名

6. 居宅介護支援事業

(1) 令和4年度を振り返り

令和4年度は「感染症、災害発生時においても住み慣れた地域での生活を継続できるように支援する」を目標に掲げました。担当しているご利用者のコロナ感染によるサービス調整や、利用しているサービス事業所でのクラスター発生への対応を関係機関と連携し、在宅での生活が継続できるように支援を行いました。また感染症・災害発生に備えてBCPの策定に事業所全体で取り組みました。

(2) 事業計画実施状況

① 適正件数の維持と法人内での連携強化

月別新規居宅サービス計画届け出件数は（表1参照）の通りです。昨年度の約5倍の新規ケースの受け入れ件数となっています。10月からケアマネジャー1名が入職したこと、施設入所や入院により終了ケースが多かったことが要因です。施設入所までの待機期間が短くなっていることがあり、今後も担当終了ケースが多くなることが見込まれます。今後も適正担当件数（35件）維持のために積極的な新規ケースの受け入れを行っていきます。

利用者特定事業所集中減算の当事業所利用率（表2参照）訪問介護57%、通所介護69%、短期入所介護67%となっています。通所介護、短期入所生活介護ともに利用率がほぼ昨年同様です。今後も法人内に訪問介護、通所介護、短期入所生活介護が併設している強みを活かし、各サービスとの連携を強化していきます。

加算項目別件数（表3参照）については、ケアマネジャー1名が入職した10月からは初回加算の算定件数が増えています。入退院時連携加算は、昨年度と同様、コロナ禍で病院でのカンファレンスの機会が減少していることから加算の算定が少なくなっています。

② 質の高いケアマネジメントの提供

各職員が研修計画を作成し外部研修にオンラインで参加しました。研修参加後は、週1回の定例会議で、研修に参加した職員から伝達研修を行い事業所全体でのスキルアップが図れるように取り組みました。

参加研修

4月	高齢者虐待防止の推進セミナー	10月	リハビリテーションについて
5月	定期巡回サービスについて	11月	摂食嚥下リハビリテーション
6月	福祉用具勉強会	12月	在宅医療機器勉強会
7月	精神疾患について	1月	訪問リハビリについて
8月	苦情対応・ハラスメント対策	2月	制度改正に必要なAI・ICT
9月	口腔機能について	3月	高齢者支援に必要な医学知識

③ 地域との連携強化

近隣居宅支援事業所と合同勉強会はオンラインを活用し継続することができました。事例検討会3回とケアプランデータ連携システムについての勉強会1回を開催しています。赤塚地区のケアマネジャー勉強会に事業所の主任ケアマネジャーが包括支援センターと協働事業として参画しました。

④ 人材育成とチームとして働く快適な環境づくり

支援困難ケースについては、週1回の事業所内会議での事例検討や朝のミーティングで相談を行い、主任ケアマネジャーが中心となり事業所全体で検討し、一人で抱え込むことがないように努めました。

また、ケースの情報共有により、担当ケアマネジャーが不在でも他のケアマネジャーが相談を受け、職員の有給休暇が取得しやすい環境づくりを行っています。

⑤ 感染症・災害発生時にも対応できる体制づくり

感染症・災害発生時の際も業務が継続できることを目的に、支援の緊急性や医療行為が把握できるようにケースファイルの記載を統一しました。来年度は、アセスメント票に記載していた災害発生時の連絡方法や緊急連絡票を見直し、より迅速に対応ができるように工夫していきたいと考えています。

月別新規居宅サービス計画届出件数（表１）

単位：（人）

性別/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	2	1	0	3	1	1	3	3	2	2	8	4	30
女性	2	4	1	1	7	2	4	6	5	6	5	8	51
合計	4	5	1	4	8	3	7	9	8	8	12	12	81

特定事業所集中減算による当事業所の利用率（表２）

単位：（件）

	全体件数	ケアタウン成増	当事業所の利用率%
訪問介護	51	29	57%
通所介護	63	43	69%
短期入所生活介護	21	14	67%

加算項目別件数（表３）

単位：（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院加算Ⅰ・Ⅱ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
退院・退所加算	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0
初回加算	3	4	3	3	6	4	7	9	10	9	12	8
事業所加算Ⅱ	125	128	128	127	124	127	134	138	137	141	149	146
通院時情報連携	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

7. 成増地域包括支援センター

（１）令和４年度を振り返り

当センター担当地域は、成増１丁目～４丁目、赤塚３、４丁目、赤塚５丁目の１８番～３６番となっています。

板橋区の高齢者数は１３１，７２５人（令和４年１０月現在）、高齢化率２３．２％であり、当センターの高齢者数合計６，８１０人（６５～７４歳３，１６０人、７５歳以上３，６５０人）、高齢化率は１８．５％となっています。高齢者人口のうち介護保険の認定を受けている方が１，３６３人でそのうち在宅でサービスを利用している方が６１６人となっています。

地域包括支援センターの主な機能として、①介護予防マネジメント、②総合的な

相談支援、③包括的・継続的ケアマネジメント、④虐待防止・早期発見等の権利擁護があります。当センターでは、社会福祉士、地域保健等の経験をもつ看護師、主任ケアマネジャー、ケアマネジャーなど、9名体制（令和5年3月末時点）で業務を行っています。

介護予防支援事業については、要支援認定を受けた方へのケアプラン作成やサービス調整を行っています。令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、代替えサービスの調整等行いました。特に第6波、第7波の感染が広まった際は受診の支援や体調のチェックなど行いました。

総合相談については、新型コロナウイルス感染拡大により、外出・他者と交流する機会の減少から認知面・身体機能の低下に関する相談が昨年に引き続き多い状況がありました。

また、本来支援が必要な状況ではあるが本人がサービスの利用を望まないケース、生活困窮者の生計困難ケース、緊急対応が必要なケース、精神医療の介入を必要とするケースなど、関係機関や地域の方の協力を必要とするケースが引き続き多い状況です。本人、家族を含め多岐にわたる問題を抱えたケースが多くなり、これまで以上に、医療と介護、その他の連携が必要な状況となっています。認知症関連では、認知症サポーター養成講座を小学校総合学習と、成増図書館と協働し認知症イベントの中で実施しました。引き続き、認知症の方や家族への支援を行っています。

「支え合い会議成増」は成増アクトホール、まなぼーと成増で行っています。また、ホームページのブログや公式LINEアカウントを通じて情報発信も活発に行っています。さらに、今まで行っていた「杏の会」に加え、「スマホ相談会」など新たに4つの活動を行っています。

今後も地域包括ケア構築を目指し、様々な機関や地域と連携し、高齢者が安心して住み続けられる地域となるよう努めます。

（2）令和4年度 相談件数実績

令和4年度の訪問による相談者（※以下の数字延べ人数）が1,721名、来所が269件、電話が6,177件となっています。

相談は電話、来所、訪問共に増加しています。

相談内容では、昨年に引き続き介護サービス関連についての相談が最も多くなっています。続いては医療関連、生活・家庭相談、介護保険要介護認定相談の順となっています。全体的に内容は多岐に亘っており、今後も相談件数の増加が想定されます。

（3）総合相談

地域高齢者の生活に関わるあらゆる相談に応じています。介護保険制度（申請からサービス調整含む）、介護予防・日常生活支援総合事業についての相談が多く、関連して医療・保健相談が続いています。障がいや難病をお持ちの方、経済的な支援を必要としているケースなどは、その他の制度の活用や各関係機関へのご案内・調整等を行い、安定した生活が行えるよう支援しています。

経済的な問題やキーパーソンが不在の独居高齢者の相談なども増えており、地域の民生児童委員や各関係機関と連携しながら対応を行っていますが、支援調整が長期化するケースも多くなっています。問題が複雑化しているケースについては、センター内で方針を検討しながら、支援にあたっています。

平成28年10月より、窓口相談やサロン訪問時などに、希望者に「見守りキーパーホルダー」をお渡ししています。また、相談支援時に必要性が高い方と判断される方には、積極的に登録を勧めています。令和5年3月末現在で757名が登録してお

り、内、今年度は105名の登録となりました。地域住民からの身元不明等高齢者の問い合わせ対応の他、保護・身元不明に関する警察・病院からの問い合わせ時等に、見守りキーホルダーの番号で身元の照合を行い、必要に応じて、緊急連絡先へ連絡を行っています。

(4) 虐待相談

令和4年度、3件の相談がありました。内1件は、虐待者が介護者である妻で、虐待内容は身体的虐待、もう2件は、虐待者が介護者である子で、身体的虐待、放棄・放任がありました。

いずれのケースもケアマネジャーが担当していて、ご親族・関係機関と連携をとりながら見守りや緊急対応、介護保険サービスの調整など必要な支援を行いました。現在も引き続き関係機関や支援者と連携をとりながら、調整・支援を進めています。

(5) 板橋区苦情・相談事業

令和4年度、介護保険苦情・相談記録報告書による要望・クレームの報告は0件でした。担当地区の居宅介護支援事業所に対する要望や事業所変更等のご相談は引き続きあがっています。ケアマネジャーとご利用者・ご家族の両者の意見を聴取して、調整を行っています。

(6) 介護予防・日常生活支援総合事業及び予防給付管理について

板橋区が開催する令和4年度元気力測定会は前期、後期ともに定員を減らして実施されました。成増地域は5名が事業対象者となり、その他、窓口や小集団で20人以上の基本チェックリストを実施しています。昨年新型コロナウイルス感染症の影響で行うことができなかった小集団に向けての基本チェックリストを含む測定会は10か所実施しました。区内の介護予防活動グループは、感染対策をしたうえで再開したところもありますが、後継者不足なども影響し、地域内で半数ほどのグループが解散や活動中止を選択されています。

予防給付管理に関しては、新型コロナウイルス陽性者の発生やその影響で利用を控えるご利用者もいましたが、昨年と比べると人が集まるデイサービスなどのサービスの利用控えは減少し、感染の波が落ち着けば再開する方が増えました。利用中止期間中には、担当職員が代替えサービスやセルフトレーニングの促し等を行いました。

昨年から開始した、地域の運動指導を行っている整骨院やデイサービス、訪問看護事業所、デイケアサービス事業所の職員によるリハビリ動画は継続しており、公式LINEアカウント等にて2カ月に1回程度配信しています。

【総合事業・介護予防サービス利用者数】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防支援	136	138	145	142	142	141	139	136	140	134	135	132	1660
介護予防ケアマネジメントA	98	95	102	104	105	100	100	100	106	108	105	107	1230
〃 B	1	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	1	13
〃 C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

(令和5年3月末現在)

※介護予防ケアマネジメントとは総合事業訪問型サービス・通所型サービスのみを対

象としたプランとなります。

※上記の数字には新型コロナウイルス感染症の臨時的な措置として、一時的にサービスを利用していない方のケアプラン件数も含まれています。

(7) ケアマネジメント支援

ケアマネジャーからの日常的な個別相談や関連機関との連携に関わる相談を行っています。主な相談内容としてはケアマネジャーとの関係性悪化からケアマネジャー交代に関する相談ケースや、介護サービスの支援の必要性が高いが、利用に消極的な方のケースの同行訪問。金銭問題、ネグレクト等の虐待が疑われるケースなどがありました。また、ご家族対応が難しいケースでは、成年後見制度の活用を進めるため板橋区権利擁護サポートセンターの紹介や連携を図りました。ケアマネジャー支援として区に報告書を上げたケースが30件。新型コロナウイルス感染拡大により同行訪問の他、電話による助言なども交えながら地域のケアマネジャー支援を行っています。

地域のケアマネジャーとの顔の見える関係作りの場として、ケアマネジャーからの要望もあり、コロナ禍での感染予防対策の為、オンライン形式でのケアマネルームを三園地域包括支援センターと合同で2回開催しました。

(8) 地区ネットワーク会議

地域で高齢者等を支援する機関のネットワークを強化するため、成増地区（成増・三園）として開催しています。令和4年度は新型コロナウイルス感染がおさまりにくい状況のため、オンラインと会場集合で人数を分散しての開催で行いました。「コロナ禍でも！～介護予防大作戦～」の内容で、介護予防をテーマとした地域団体の取り組みの紹介、コロナ禍での活動課題の共有を行っています。

(9) 板橋区相談協力員連絡会・民生児童委員の皆様との連携について

民生児童委員、相談協力薬局、相談協力接骨院の方々を対象として、地域のネットワーク強化および知識向上を目的に年1回程度の連絡会を開催しています。

令和4年度も例年どおり三園地域包括支援センターと合同で相談協力員連絡会を行いました。

テーマは「騙されないぞ！！消費者被害～見守りのポイント～」と題し、高齢者が遭いやすい消費者被害ケース事例の紹介や、高齢者の見守りのポイントについて、全国消費生活相談員協会の方を講師に講演していただきました。

また、令和3年度より始まった「民生児童委員と地域包括支援センターの情報交換会」を、今年度も引き続き開催しました。地域の高齢者の方の情報を共有することで、支援が必要な方の早期発見と支援を行うことができた他、地域情報の共有や見守り訪問時のポイントなどを相互で確認することができました。

(10) サービス事業者交流会

令和4年度事業者交流会は、地域のケアマネジャーを対象にコロナ禍での感染予防を重視し、オンライン形式での勉強会を赤塚地区の地域包括支援センター（成増・三園・下赤塚・徳丸）と赤塚地区居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャーとの合同で1回開催しました。

「相談しやすいケアマネ、相談しやすいサ責について話し合おう～訪問介護のアンケート結果を踏まえて～」をテーマに開催しました。ケアマネジャーと訪問介護事

業者との顔の見える関係作りの一つとしてグループワークを通じてお互いの情報交換を行い、効率的に業務を行えるようになること目指し、開催することができました。

(1 1) 板橋区小地域ケア会議

高齢者個人に対する支援の充実とともに、それを支える基盤の整備を行う有効な手段として「板橋区小地域ケア会議」を開催しました。

「認知能力低下があるキーパーソン不在の方の医療や金銭管理について」をテーマに開催しました。感染症予防対策を行い数年ぶりに対面での会議を開催し、多くの介護・医療関係者にご参加いただくことができました。

認知症の方が地域で暮らし続ける為の相談窓口や、連携方法など、参加者や地域の方々と共有することができました。

(1 2) 認知症の方・家族支援

平成21年6月に発足した「認知症の方を介護する家族会 きずな」は、令和4年度は毎月開催しています。コロナ禍で15時までの時間短縮で実施し、多いときは10名を超える参加がありました。新規参加者は7名。介護予防グループの方の参加もありました。家族会参加者の多くが高齢になり、運営リーダーの負担感と参加者の活動持続への不安は継続しています。参加者からは「言いたくても言葉にしていけないと思っていたことを聞いてもらい、経験者の皆さんに受け止めてもらったことで気持ちが落ちきました」等、涙ながらに話をされる様子もありました。

当施設のロビーにて開催していた認知症カフェですが、感染症予防対策の継続で令和元年度から現在も休止状態となっています。

今年度も様々な場面で認知症とともに生きる方が住み慣れた地域で活動できる場所を持てるように、本人の特性を理解し、関係者が家族とご本人を交えながら意見交換を行い、活動の継続や新しい活動の創出（サークル活動やボランティア活動の参加）などの支援を行いました。

今後も認知症の症状の周知だけでなく、認知症とともに生きる人が希望を持って暮らすための支援についても、地域の皆様への啓蒙活動を行っていきます。

(1 3) 認知症早期発見

成増地域センターを会場に、認知症の早期発見を目的として「もの忘れ相談医」による認知症に関する個別相談を行っています。1回あたり0名～2名で、計3回実施されています。また、他の地域包括支援センター担当のもの忘れ相談でフォローの必要な方のご相談を行い必要な支援を行っています。

認知症初期集中支援事業として、認知症サポート医と地域包括支援センターの福祉職、看護職がチーム員となり認知症の方とその家族の支援について検討会議を行いました。令和4年度は継続ケース3件、新規ケース4件の検討を行い、うち2件の訪問を行い、介護保険サービス、認知症専門病院や訪問診療に繋げています。

また、新規ケース2件については、同居の長男、長女が相談に適切に応じていただけて、相談が進まない状況となっていました。今後も本事業の活用とともに、地域住民やケアマネジャーの協力を得て、認知症の方に必要な医療や支援を届けたいと思います。

(14) 認知症の知識の普及

認知症の知識の普及として「認知症サポーター養成講座」を計2回開催しました。成増図書館と合同開催したイベントで参加者13名、オンライン会議ソフト

「ZOOM」を活用したオンライン通信で成増小学校第4学年(103名)に対して行いました。養成講座の内容としては、認知症とともに生きる人の対応について「寸劇」を実施して、参加者に認知症のことについて一緒に考えていただける工夫をしています。

オンライン通信を活用した成増小学校の講座では実体験や臨場感(いわゆるライブ感)に焦点を当てるために、当法人のデイサービスの協力を得て教室の生徒との質疑応答を行いました。小学生から「趣味は何ですか?好きだった遊びは何でしたか?」などお互いの視点で会話することができました。

今後も認知症の症状や特性の周知だけでなく、認知症とともに生きる人が希望を持って暮らしている様子や、認知症の進行を遅らせるための日々の活動(認知症予防)についても知っていただけるよう地域の皆さんへの啓蒙活動を行っていきます。

(15) 成増助け合い・支え合いの地域づくり会議

平成28年度成増地区で勉強会を行い、その後「成増助け合い・支え合いの地域づくり会議」が立ち上がりました。毎月1回地域の集会所等をお借りし、会議を継続しています。

新型コロナウイルスの感染状況に合わせ、オンラインとオフラインを組み合わせで実施しています。オンラインは会議ソフト「ZOOM」を使用し、複数の会場と繋ぐことで3密を避け開催。地域への情報発信等はホームページのブログや公式LINEアカウントを通じて行っています。LINEアカウントの登録者は100人を超え、若い世代とのつながりだけでなく、地域で活躍する方と個別につながりコミュニケーションをとることで新たな活動創出のきっかけとなっています。

季節の折り紙を作る「杏の会」は運営側が4名から8名に増え、参加者も1回10名ほどとなり月1回安定して行うことができています。

その他新しく始まった活動が4つ。まず1つ目はスマホ相談会。この相談会は会議で「スマホ操作に困っている高齢者が多くいるので何かできないか」と話し合いが始まり9月に実現しました。現在、いたばしボランティアセンターの協力を得て月1回長太郎不動産の物件をお借りして開催しています。2つ目は「チームオレンジミニ劇団なります」です。こちらはいたばし認知症かるたの内容を地域の皆さまにわかりやすく伝えたいと認知症サポーターを中心に始まり、かるたを動画にして公式LINEアカウントなどで配信する取り組みです。月1回定期的に集まり、活動が定着してきています。3つ目は認知症、介護予防など現在活躍するサポーターに働きかけ始まった地域向け勉強会を企画する集まりです。メンバーは固定ではなく、有志で集まった方たちが自分たちも知りたいことを話し合ってテーマを決め、勉強会開催に向けての準備をします。月1回程度集まり、勉強会は3~4カ月に1回のペースで実施しています。最後は誰もが気軽に立ち寄れる場所を成増に作ろうと2年ほど前から企画していたものが実現し、「ほっこりなりりん」と題して2月から活動を開始しています。場所は喫茶店を経営する方が店舗の一角で開催することを快諾くださり、毎月第4金曜日の午後に約2時間実施しています。始まったばかりですが、今後は高齢者だけでなく子どもたちも立ち寄れるような場所にしていきたいと運営担当のメンバーで話し合いをしています。

また、支え合い会議成増の広報活動として、「なりりんニュースレター」を年4回定期発行し、近隣の公共機関や郵便局、企業団体に配布・設置依頼を継続しております。また、新型コロナウイルス感染症の影響で地域活動の約半数が活動休止や中止となり内容も変更となっている団体が多かったため、「高齢者の居場所編マッ

プ」を再編することとなり、令和5年4月以降の配布を目指し調整中です。感染症の影響により中止となっていた地域のシニア向けイベントは、介護予防をテーマにした「元気になりますフェスタ2022」を5月に、認知症をテーマにした「認知症、やさしい街では認知笑2022」を9月にそれぞれ開催し、5月は300名、9月は100名ほどの来場があり、来年も開催してほしいという声が多く聞かれたため令和5年度も開催する方向で話し合いを進めています。

	開催日	内容
杏の会	毎月1回	成増図書館の掲示板を彩る季節の折り紙を作成
スマホ相談会	毎月1回	スマホ基本操作の質問を受け付け
チームオレンジミニ劇団なります	毎月1回	いたばし認知笑かるたの内容を動画にして配信
地域向け勉強会	3～4カ月に1回	栄養や健康など地域住民の健康維持につながるような勉強会の企画・実施
ほっこりなりりん	毎月1回	誰もが気軽に立ち寄り、おしゃべりできる場を開催

(16) 支援センターだより

赤塚地区地域包括支援センターでは年4回を支援センターだよりを発行しています。地域住民の方々へ配布する他、地域の回覧板を活用して、支援センター区域内にある町会に回覧をしています。

今年度はスケジュール調整円滑にいかず春号は次年度に延期となりました。

年間発行回数	発行月	内容
4回	6月	いたばし認知笑かるた
	9月	“#9110”をご存じですか
	12月	高齢者の交通安全
	3月	(次年度に延期)